Ⅸ．資産除去債務関係

⑴　資産除去債務の概要及び金額の算定方法

①　アスベスト

アスベストは、石綿使用建築物の除去義務等です。

使用見込み期間を残存耐用年数に基づいて見積もり、割引率は期間に応じた国債利回りを使用して、資産除去債務の金額を計算しています。

②　原状回復

原状回復は、土地の賃貸借契約に伴う原状回復義務等です。

使用見込み期間を残存耐用年数に基づいて見積もり、割引率は期間に応じた国債利回りを使用して、資産除去債務の金額を計算しています。

⑵　当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	56,140,118円
有形固定資産の取得に伴う増加額	770,000円
時の経過による調整額	37,432円
資産除去債務の履行に伴う減少額	11,130,904円
期末残高	45,816,646円

Ⅹ．減損の認識に関する事項

⑴　減損を認識した固定資産について

①　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：円）

用　途	種　　類	帳 簿 価 額	場　　所
一般管理	建物	4,754,416	留学生会館Ｂ棟（福井県福井市文京）
合　　計		4,754,416	

②　減損の認識に至った経緯

留学生会館Ｂ棟については、利用計画等の想定に照らし業務を実施したものの、今後の利用者数の増加が見込めないことから、減損を認識しました。

③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額　（単位：円）

用　途	種　　類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額	場　　所
一般管理	建物	―	3,565,812	留学生会館Ｂ棟
合　　計		―	3,565,812	

④　複数の固定資産を一体として判定した理由

附属設備は当該建物に附属しており、一体として機能しているため。

⑤　回収可能サービス価額の算定方法の概要

建物については、売却見込みがないため、使用価値相当額により算定しています。

使用価値相当額は利用の想定に応じた利用率により以下のとおり算出しました。

（単位：円）

用　途	種　　類	帳 簿 価 額	利用率	使用価値相当額	場　　所
一般管理	建物	4,754,416	25％	1,188,604	留学生会館Ｂ棟
合　　計				1,188,604	

⑵　減損の兆候が認められた固定資産について

①　減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

（単位：円）

用　途	種　　類	帳 簿 価 額	場　　所
一般管理	土地	39,439,642	乾徳宿舎（福井県福井市乾徳）
一般管理	土地	228,702,496	大願寺宿舎（福井県福井市大願寺）
一般管理	土地	83,222,067	松本宿舎（福井県福井市松本）
合　　計		351,364,205	

②　減損の兆候の概要及び減損を認識しない根拠

土地については、回収可能サービス価額が当該資産の帳簿価額を上回っているため、減損処理をしておりません。

Ⅺ．退職給付に係る注記

⑴　採用している退職給付制度の概要

当法人は、職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度を採用しています。当該制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

⑵　確定給付制度

①　簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	784,015,827円
退職給付費用	172,400,214円
退職給付の支払額	△29,615,832円
期末における退職給付引当金	926,800,209円

②　退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	172,400,214円

Ⅻ．収益認識に関する注記

当法人は、以下に記載する内容を除き、会計基準第77における収益に重要性が乏しいため、注記を省略しています。

⑴　収益の分解情報

当法人は教育・研究・診療業務を実施しており、基準第77を適用する取引に係る主なサービス等の種類と収益の額は、附属病院の診療による附属病院収益22,891百万円、大学入試入学に係る検定料収益74百万円、国立大学法人第33条の３における土地等の貸付等による財産貸付料収益55百万円です。

⑵　収益を理解するための基盤となる情報

「重要な会計法人に係る事項に関する注記」の「収益及び費用の計上基準」に記載しています。

⑶　当該事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

当該事業年度末における残存履行義務に配分された取引はありません。

ⅩⅢ．重要な後発事象

重要な後発事象は発生していません。